

## 平成19年安全衛生活動実績

本年の大手鉄鋼4社の安全成績は、休業以上の災害は102件（内死亡災害7件）とこの3年間では最も少ない災害発生でした。しかし、協力会社の立場から見ると、本年の対総件数に占める協力会社被災率は約74%（75件）でこの3年間で最も悪い値でした。また、協力会社の被災率は年々2～3%ずつ増加しています。

厚生労働省はこうした状況に鑑み、昨年来元方事業者及び元請事業者に対し、「製造業における元方事業者による総合的な安全衛生管理指針」の積極的な履行を促す指導を強化されています。

北九州西労働基準監督署におかれましても、11月12,13日に管内大規模事業場を対象とした現場パトロールを実施され、総括講評の中で親会社及び主要元請会社20社の代表に対し同指針の詳細な説明と、元方及び元請双方に安全最優先を強く求められました。

当委員会の活動は、10月1日に組織統合を行ないましたが当初計画通り安全衛生事業をはじめとする各種事業を実施しました。

本年の特筆すべき活動としては、八幡製鐵所H20年の直・協連携重点取り組み課題＜元請会社の安全体質強化支援強化施策＞を踏まえ、【入構者安全衛生教育の抜本的見直し】、【元請会社による下請安全指導マニュアル作成】について、プロジェクトを編成して成し遂げました。

会員各社におかれましては、自社の活動方針に則った自主自立の安全衛生活動を進めると共に、八幡製鐵所主管部門と一体となって「仕事をていねいにきちんとやるキャンペーン」を展開し、その中で双方向での総対話活動を通してリスクの発掘と安全対策の促進を展開しました。

年後半は、元請会社の安全体質強化をさらに深化させる支援活動について、関係行政の指導動向や災害分析等を参考にすると共に、総合会員会社並びに八幡製鐵所のご指導を仰ぎながら中長期的な広い視野で議論を展開し計画案の策定を行ないました。

今回はじめてこのような議論を行ないましたが、これは組織統合による組織力効果（経営・安全のさらなる一体化）が発揮されたと考えています。

以上